みんなの広場

はっらつ ところ 野老っ子

「一音（いちおん）入魂」全盲の音楽家

北田　康広さん
（上新井在住）

瞳（ひとみ）を閉じて、その歌声に聴き入ると、…翼を痛めた鳥が、その傷を癒されて再び大空へと翔び立って行く…そんな優しさと勇気がわいてきます。

ピアニストであり声楽家（バリトン歌手）である北田さんは、現在、全国の学校、教会、ホールなどで年間80回のコンサートを行う音楽家として活躍しています。

しかし、その道のりは決して平坦ではありませんでした。未熟児網膜症などにより、5歳のときに両目の視力を失います。小学校入学から、盲学校の寮生活のため親元を離れ、その後、両親は離婚してしまいます。

幼いころに失明して、大好きな母の顔が見られなくなったうえ、会うことさえも難しくなってしまった少年は、失意のどん底に立たされます。その寂しさや苦しい思いを晴らすため、ドラム缶でもガラスでも音がするものを手あたりしだい叩いていました。やがて、それはギターやピアノや歌に変わっていきました。「唯一、私が心を寄せることができたのが音楽だった」と当時を振り返ります。

高校時代に進路で悩んでいたとき、担任の先生が「視覚障害者だからといって、夢をあきらめるな」と応援してくれたことがきっかけで、音楽の道へ進むことを決心。猛勉強の末、武蔵野音楽大学に点字受験で見事に合格を果たします。

目の見える人たちの中で音楽に取り組むという厳しい日々でしたが、北田さんは負けません。「目が見えないことで、回り道にはなりましたが、その分、奥の深い『音』が見えてきます。闇が深いほど、その音色は美しい」と語ります。

所沢に住んで15年、お気に入りの場所は、四季を肌で感じる狭山丘陵と音響がすばらしい市民文化センター・ミューズだそうです。

昨年、ショパンの「ワルツ」や唱歌「ふるさと」などを収録した初のCDを出しました。そのジャケットにはミューズでのレコーディング風景の写真を載せています。

命の尊さ、平和への願い、「自分らしく生きること」の大切さを伝えるために、北田さんは、今日も心温まる歌声と美しい旋律を奏でているのです。

リサイタルでの北田さん

▲さあ、次の一手は…。168人の小学生棋士たちの対局です。「子ども『とうきち』将棋大会」。
2月20日㈰／文化会館

TOKOROZAWA ものしり ウォーキング 59

三ヶ島・狭山ヶ丘駅　最終回

狭山ヶ丘駅東口

西武池袋線の狭山ヶ丘駅は、大正4年（1915）に元狭停車場として開設されました。武蔵野鉄道（当時）の所沢・飯能間の開通に合わせたもので、駅名はその半年後に、三ヶ島村停車場と改称され、昭和8年（1933）に現行の名称となりました。

元狭山という駅名は、この辺りが狭山茶の産地だったことによるといわれます。しかし、狭山茶の茶場碑が元狭山村（入間市）にあったことから、三ヶ島村に変更されました。しかし、これも常磐線の三河島駅と間違えやすいということで、現在の駅名になったといいます。

かつては、駅舎も木造平屋で、改札口も今より入間市寄りにありました。現在のような橋上（きょうじょう）駅になったのは昭和40年代のことです。

狭山ヶ丘駅周辺は、もともと三ヶ島村の新田場（にったば）（開発地）だったため、周囲はほとんどが雑木林でした。戦後になって現在の和ヶ原の開拓がはじまり、次第に開けていきました。現在の通称「所商（しょしょう）通り」も、そのころ「開墾通り」と呼ばれていました。当時、駅近くに貨車で運ばれたふん尿の捨て場があり、農家の人たちの肥料として使われたといいます。

２つの植樹記念碑と桜

一方、駅東口は、区画整理に伴って平成5年に開設された新しい玄関口です。映画「Shall we ダンス?」の撮影地となったことは有名で、主人公が住む新興住宅地の駅として通勤場面で使われました。

開設当初は、周辺に建物もほとんどありませんでしたが、現在では住宅や商店が建ち並びます。

西口駅前には、2つの桜の植樹記念碑が建っています。一つは駅が開設された年に、大正天皇の即位記念として植えられた際に建てられた碑です。もう一つは昭和4年に昭和天皇の御成婚記念に植えられた際に建てられた碑です。

桜は、駅構内や道路沿いに植えられたそうですが、当時の桜はほとんど残っていません。現在、碑の傍らに植えられている桜は、駅が整備された昭和40年代に植えられたものです。

狭山ヶ丘駅前とその周辺も桜とともに大きく様変わりしました。

街かど ズームイン

▶皆さんからの「街かどズームイン」情報を募集▶採用者には事前に連絡します▶「誰でもエッセイ」ではテーマにそった投稿を募集▶はがきに300字以内で▶文章は添削あり▶掲載者には記念品を進呈▶次回のテーマは「就職」▶時代により、就職事情もさまざま▶就職活動中の方▶就職・再就職して頑張っている方▶皆さんの就職にまつわる話をお寄せください▶締め切りは4月6日㈬必着▶住所・氏名・年齢・電話番号を明記▶送り先：〒359-8501・並木1-1-1所沢市役所秘書広報課「みんなの広場」係

▲親、子、孫の三世代が集い、紙相撲や昔懐かしい遊びなどを楽しみました。「富岡三世代まつり」。
2月20日㈰／富岡公民館

▲大きな花、小さな花それぞれの個性が光ります。中には髪飾りの作品も。「フラワーデザイン展」。
2月19日㈯・20日㈰／市民文化センター・ミューズ

リサイクル ふれあい館「エコロ」不用品ガイド

●**譲ります**　▷自転車（24インチ）▷ベット用櫓（おり）▷ウッドカーペット（6畳）▷電子オルガン▷電気炊飯器▷フィットネス用エアロバイク▷パソコン用スキャナー▷ワープロ▷2段ベッド▷コーヒーメーカー▷電動マージャン卓

●**求めます**　▷ロックミシン▷ホームベーカリー▷布団乾燥機▷自転車（18・26インチ）▷座卓▷姿見▷テレビ▷電子レンジ▷パソコンデスク▷ノートパソコン

◎登録翌月の初旬に内容を館内に展示しています。また、市ホームページ（アドレスは表紙参照）にも掲載していますのでご利用ください。

休館日　月曜日、祝休日

申し込み・問い合わせ　リサイクルふれあい館（☎2994-5374・FAX2994-1118）

誰でもエッセイ

テーマ　卒業

卒業式の朝

和ヶ原・山ノ井　義治

小学校6年生のときの担任の先生は、スポーツの好きな若い男の先生だった。卒業式の始まる朝、最後の朝礼で教壇に立たれた先生の目は真っ赤だった。やがて大きな目から涙があふれた。

私たちを見つめたまま、いつまでも立っておられた。先生の言葉はなくとも、私たちを、どんなにいとおしく思っておられるか、別れをどんなに惜しんでおられるか、その熱いお気持ちがひしひしと伝わった。だれも何も話さなかったが、いつしか、私たちもすすり泣き、そのおえつは廊下の外にも漏れた。

別離（わかれ）形式的な卒業式よりもずっと心に残るさが残る朝であったが、窓の外には薄桃色の桜の花が咲き始めていた。

最後の献血

和ヶ原・田中　隆清

私の血でよければ、「どうぞ」という軽い気持ちで始め、10回が20回と自然に習慣になり、今も続けている献血。

今年7月をもって、年齢制限のため最終回となるが、複雑な心境でもある。

まず、健康な身体で献血が続けられたことに感謝したい。そして、いままで世に出たわが分身が、知らないところで役に立っていると思うとうれしくなる。

今、二十歳の献血から始めていればよかったなとつくづく感じている。献血の卒業で、目標が一つなくなるのはつらい。

ダイヤモンドの原石

久米・井原　喜一郎

カレンダーも冬景色から花いっぱいの内容に変わり、いよいよ春です。春は、新しく始まる人生の出発点でもあります。

「卒業式」を終えれば、次は入学式、入社式など夢と希望を胸いっぱいにふくらませての新しい人生の船出の時季。

ダイヤモンドも原石のままでは、その輝きは未知数ですが、一生懸命磨けば立派な宝石になります。

人生も仕事もいろいろです。まだまだこれからだと頑張る人もいるでしょう。また、このあたりで一服という人もいるでしょう。目標を作り、精進を重ねていくことが大事だと思います。私は、人生には卒業はないと思います。

人生という学校

久米・中見川　智子

私の母は、昨年の12月31日に他界しました。それはそれは元気で、毎日のように歩いて出かけていました。

若いときから、ダンス、マージャン、ボウリング、旅行と人生を楽しみ、家族愛もとても深く、いつも家族を思いやる優しい人でした。

母は、だれにでも親切で、困った人を見るといつも手を差し伸べていました。私たちは、そんな母が大好きでした。

亡くなるその日も、孫と一緒に買い物に行き、夜にはお正月のおせち料理の用意をして、何より好きなお風呂に入って身体を洗い、頭を洗いました。

お母さん、お疲れ様でした。母は人生という学校を「卒業」していきました。

卒業式の歌

東町・西澤　園美

小学校の音楽教師をしている私は、数年前まで卒業式に歌う歌は、児童に作詞作曲をさせていました。

先日、卒業生たちが高校合格の報告に音楽室へ来たとき、とてもうれしいことがありました。1人が「私たちの歌を歌おう!」と声を掛けると、みんながピアノの周りに集まり、自分たちで作った歌を歌い始めたのです。

「このフレーズは○○君が思いついたんだよね」「このメロディーは今でもグッとくる」などとわいわい楽しそうにしている姿は、小学校6年生だったころにタイムスリップしたようです。

自分たちで作った歌だからこそ、いつまでも心に残っているのだと思います。

将来、同窓会等で校歌を歌う際に、教え子たちが第2の校歌として小学生時代に作ったオリジナルソングを歌ってくれたらと思うと、音楽教師冥利（みょうり）に尽きます。

おばさんの卒業式

若狭・大澤　美江

武道館の門をくぐると、袴（はかま）姿の女子大生や背広姿の男子学生が大勢いた。晴れやかな顔で、あちらこちらで輪をつくり談笑していた。

私と友人が、式典会場に向かっていると、案内の人から「保護者の方は、あちらの入り口からお入りください」と言われ、「すみません。私たち卒業生なのですが…」「失礼しました」。53歳の卒業生なんてめったにいないだろうし、間違えられるのもしかたがない。

私たちは、空いている一番前の席に座った。しばらくすると「もしもし、この席は総代の席なのですが…」。慌てて移動する私たちに、恥ずかしさがまとわり付いてきた。

「卒業」の言葉とともに思い出す、通信教育の大学生だったころの楽しい思い出の一つである。

とことこ 町内会めぐり

【並木地区・所沢ニュータウン自治会】
～明るく住みよい街づくり～

所沢ニュータウン自治会は、所沢市の北部（米軍通信基地の北側）、最寄り駅の新所沢駅からニュータウン行きバスで10分ほどの所に位置し、中新井3～5丁目の住宅など約1,150世帯の会員を有しています。

所沢ニュータウンは、昭和45年に特定住宅地造成事業の指定第1号として宅地分譲されました。当初は、道路・街灯・バス運行などの問題を抱えていましたが、昭和47年7月に「明るく住みよい街づくり」と「会員相互の親睦（ぼく）」を目的に自治会が発足しました。

四季を通じてバス旅行、納涼祭、運動会、どんど焼きなどの催し物の開催や、住みよい街づくりを目指し、防犯パトロール、防災訓練などに力を入れてきました。昭和60年には、彩の国コミュニティ協議会から、住みよい地域社会のため地道に活動を続けている団体等に贈られる「シラコバト賞」を受賞しました。

自治会員による環境美化活動

最近の自治会活動としては、身近な街のミニチェックなど、安全で安心な街を目指して活動を行っています。

また、自治会創設以来、月刊「委員会ニュース」と季刊広報紙「いぶき」を会員相互の連絡紙として発行してきたことは、当自治会の自慢の一つです。

今後も、ボランティアとの協力関係を一層深め、気軽に楽しめる会員相互の親睦の機会を広めていくことが大切だと考えています。

―次回のテーマは「就職」です―